

---

第1弾はパレットなどの所在管理

## 東芝DS、物流向けIoTを月額制で展開

Edited By LogisticsToday On 2019/04/25

---

東芝デジタルソリューションズは25日、物流向けIoTサービスを月額制で提供すると発表した。自社が構築を担当した東芝のIoT「SPINEX」の物流向けIoTシステム基盤を活用する。

月額制で提供する物流IoTサービスは「LADOCスイート」のシリーズ名で統一し、その第一弾のサービスとしてパレットやカゴ台車などの輸送機材の所在を管理し、利用企業がコストを削減できるよう支援する追跡・所在管理サービスを「LADOCスイート/ロジトレース」のサービス名で、25日から提供する。

ロジトレースでは、物流現場で取り扱う荷物、パレットやカゴ台車などの輸送器材、車両などの「個体のトレース情報」をクラウド上に集めて蓄積し、これらを管理することで、配送先や自拠点内にある輸送器材の管理負荷を軽くする。

具体的には、荷物や輸送器材に貼り付けたRFタグなどの個体識別情報を利用し、移動情報の自動読み取り、データフィルタリング、セキュリティ通信、蓄積データの見える化——を実現。物流拠点で輸送器材の受払管理を行うことにより、輸送器材の紛失、拠点間の偏り抑えて購入コストを減らす。受払管理で課題となる輸送器材と配送先の紐付け作業は、輸送器材識別タグと配送先識別タグを同時に読み取ることで、運用負荷を軽減する。

利用者向けの個別アプリケーションを開発する体制も用意し、蓄積された輸送器材の配送先情報を活用した「誤積込防止」などのニーズに対応する。

料金体系は月額制で、顧客が管理する輸送器材に応じたライセンス体系、使用するリーダー数に応じたライセンス体系を選択できるようにする。今後は管理するターゲットの拡張、輸送中のトレース情報の収集機能の追加を計画しているという。

## ソリューションのポイント

### Point 1

#### RFIDによる データ取得

RFIDタグから受信した大量のデータをスクリーニングし、確実かつ安定したタグデータ取得を実現します。

### Point 2

#### 拡張性の高い システム構成

クラウドベースのサービスにより、器材や拠点数など管理規模や変化に合わせたサイジングが可能です。

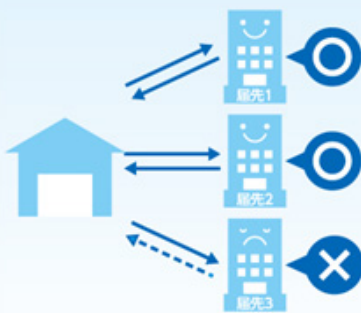
### Point 3

#### タイムリーに データ化

器材の受払・検数等をタイムリーに行うことで、適正配置や誤積込の検知・予防などをサポートします。

## 導入効果

### 器材の受払管理



届け先ごとに輸送器材の受払をトレースすることで未返却器材の特定をサポートします。

### 滞留・偏在器材の発見



使われずに眠っている輸送器材や適正量を超えて器材を保持している拠点が一目でわかります。

### 誤積込の防止



出荷予定にない貨物積込を検知した場合、ランプなどでお知らせします。  
注) アプリケーション開発が必要

### 追加購入コストの削減

### 作業品質の改善

▲「LADOCスイート/ロジトレース」の概要

「LADOCスイート/ロジトレース」の詳細

[https://www.toshiba-sol.co.jp/industry/logitrace/index\\_j.htm](https://www.toshiba-sol.co.jp/industry/logitrace/index_j.htm)

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>  
URL to article : <http://www.logi-today.com/341221>  
Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.